

里斗上は幣帛石といふありまより上はあ
川あり南西の隅より流来りて北東川と云
二川の合は幅又万七尺の勢あり
は上はおゐて一七日後ニ後行一あり一松
と云傳へり其外にも松くの云傳あれとも
懸るれを略す

は山南西の事はいふも更之山西屋東筋
奥州より毎年夏月末詣の及若白衣に山
を白^くと一度は山に登れを又末詣の一を
祀さきといふ事なり一末詣といふものを

一或死する事子よ遂に松といふ事人
口一勝炎ともいふ山は入道を禪を前教
一室前といふ事よゐては金銀を賜ふす
熱湯の湯は投入焼く事死も小山のこじ
を年の付白に

花は何金の上漕く湯屋

と云一は是なり、諸人け山ふもゐては金銀
を賜ふ事なりと謂へ一又是を望む
人山より歸りて妻人の後先は死ともといふ
を^きあといふん妙といふん名付るに詞